

S-16 生態系保全と人間の共生・共存社会の高度化 設計に関する環境リーダー育成： 国際的人材育成への挑戦

カサレト・ベアトリス・○鈴木 款・樋口富彦・片畑新一郎・徳元俊信・
吉村仁・加藤憲二・塚越哲・王権

静岡大学創造科学技術大学院・静岡市駿河区大谷 8 3 6

E-mail: sensuzu@ipc.shizuoka.ac.jp

1. 目的

環境リーダーの育成プログラムでは沿岸生態系と陸域生態系危機・ダメージを保全・修復・再生し、サステイナブルな共生型社会構築に向けた環境リーダーの育成を目的とする。地球温暖化・資源開発・環境破壊、人口密度の増大により海域・陸域の生態系は危機的状態にある。特に環境ストレスの影響を受けやすい脆弱な生態系であるサンゴ礁、海草群落あるいは乾燥地・半乾燥地域の植生に広がる病気等や種の絶滅の可能性のある生態系の保全・再生による人間への生態系サービスを維持・管理していくことは緊急な課題である。特にアジア地域におけるサンゴ礁・海草群落・マングローブにおける生態系は環境変動や人間活動の影響を受けやすく、インドネシア、タイ、ベトナム等でサンゴの病気、白化及びオニヒトデの被害が広がり、そこで暮らす人々の生活まで脅かしている。マングローブにおいてもエビの養殖跡地が放置され、生態系が破壊されている。また、陸域でも気候変動と人間活動による不適切な土地利用・水資源管理の影響から中央アジアを中心として乾燥地・半乾燥地の分布が拡大し、塩類集積等による農耕地放棄などそこでの暮らしを脅かしている。環境変化や人間活動による影響に脆弱な環境下での生態系を保全・再生することはそこで暮らす人々の生活権の問題だけでなく、アジア・アフリカ全体の水循環・環境変化に対応する新たな自然再生プログラムである。これからの更に厳しくなる環境変動や人間活動に対応できる新たな生態系保全、生態系サービス維持・管理の設計がそれぞれの生態系でできる人材育成は急務である。静岡大学の持つ、海域・陸域の生態系保

全の知識、技術、環境対策の技術や知識、経済・倫理を含む環境への対応の知識を総合的に活用し、アジア・アフリカにおける環境・生態系・人間の共生型社会の未来設計を可能にする人材育成を進める。

2. プログラム

主な柱は「3年の長期コース」と「海外短期コース」。長期コースの学生に対する英語による講義、討論会およびインターシップである。以下に実践的な英語力や企画力や技術解析能力を身につけるかが重要な課題である。国際環境論では平成 23 年度から毎月外部の企業・NGO、大学、研究機関の講師による英語の講義(国際環境論)を開講している。この国際環境論への参加学生に毎回アンケートを提出してもらっている。14項目の質問(p 26 参照)、例えば、講義内容の有益性、レベル、満足度では、「とても良い」とほとんどの学生が回答している。講師は、JICA、三菱商事、国際生態学センター、国立環境研究所、東京大、アースウォッチ・ジャパン、国連大学、世界銀行等からで、学生の修了後のキャリアパスを考える上で、その繋がりや情報は貴重な財産である。授業レベルの高さや学生の積極的な取り組みにより大きな効果を挙げている。

3. 成果

ウルムチ(2回)、ベトナム(1回)、モーリシャス(2回)、タイ(1回)、インドネシア(1回)で実施した。海外短期コースは、①3~4日(1日:1講義 3時間)、②3~4日の実習(1日6~8時間)、③1日のワーク ショップ(6時

間)で構成されている。約10日程度の海外短期コースは、総時間数では90時間程度である。このプログラムへの参加者には、レポートの提出により評価を行う。講義及び実習のそれぞれについて、何を学んだかについて報告をさせる。ワークショップでは、数人のグループで学生・教員等(本学の事業担当教員と現地の大学教員あるいは行政関係者)による環境問題に関する発表会を行う。これらにより、受講した学生に「環境リーダー研修修了書」をプログラムリーダーから授与する。現在までに、海外短期コース参加者は総数で、268人で、これらの大部分の人に授与している。さらに、そのうちの数十人は、引き続き、実習・講義に関連する課題のレポートを提出することになっており、このレポート指導の後、優れていると評価した学生には「環境マイスター」の称号を静岡大学学長名で授与している。現在までにウルムチの学生42人に授与した。このプログラムの狙いは、現地のコミュニティーとの交流により、本プログラムの長期コースで学ぶ学生たちが学位取得後、現地で活躍できるの条件を支援することである。どのような課題とどのような組織や人とコンタクトすればいいかを学ぶいい機会である。また、環境リーダーの長期コースの学生として入学する希望のある学生のインタビューも行っている。新たな人材発掘の機会でもある。

環境リーダーネットワークの構築及び運用についても重点的に進めている。海外では、中国ウルムチと強固なネットワークを構築し、海外短期コースや研究会開催等の協力を受けている。本ネットワークにより、フィールドでの観測塔の設置及び太陽電池による電源の供給等施設の設置協力を受けられ、長期コースの学生が行う調査実習等を円滑に進めることができています。また、中国内7カ所の大学・研究機関と協定を結び環境問題への意見交換、意識共有を行っている。ベトナムでは、横浜国立大学と共にフエ大学及びダナン大学と遠隔講義マーケティングシステムを利用した日越ネットワーク作りを進めている。大学間で相互の講義が行えるようになる。これにより、ベトナム国内で行うフィールド調査や海外短期コース・シンポジウム等がより円滑に進められる。アフリカのモーリシャスでも、意見交換や海外短期コース・シンポジウムの開催、長期コース学生の調査実習等の協力を受けている。平成23年度に行われたシンポジウムには、

モーリシャスの文科省に当たる大臣が出席・講演し、本プログラムとの強固な関係を維持している。

4. 今後の進め方

大学全体での支援体制の構築、大学院博士課程における環境リーダー関連の講義の正式な単位化、修了後のキャリアパスのための企業・海外等との協力関係、ネットワークの構築等の基盤を継続・発展指せて行く。今後の進め方として、日本人学生の英語力をさらに強化し、海外においてリーダーとしての活躍の場を提供するとともに実現出来る道を構築する。特に、博士号をもつ環境リーダーを養成するため、単なる環境のジェネラリストでなく、専門性が高い、スペシャリストとして養成する。また、出身国に必ずしも戻り、職を得ることだけでなく、アジア・アフリカのどこでも活躍できる人材を育成する。そのために、平成24年度に「Network of Environmental Education System」の構築のための国際円卓会議を開催する予定である。タイ・ベトナム・インドネシア・中国・モーリシャス・タンザニアの6カ国の主要なメンバーを招聘し、相互に環境リーダーにより育成された人材を受け入れ可能な協定を結ぶための会議を開催する(平成24年9月28日開催)。これに、世界銀行、国連大学、国際生態学センター等国際的な機関との連携を強化し、大学の組織的支援をより確かなものにする。さらに重要な点は、大学院(修士、博士)に「環境人材育成コース」を設置する方向で進めている。